

## 平成15年度土木学会賞候補ならびに 吉田研究奨励賞の募集

本年度土木学会賞候補の募集ならびに吉田研究奨励賞の募集をいたします。  
表彰規程および別記募集要項をご参照のうえ、ふるって推薦または応募されま  
すようお願いいたします。

土木学会賞のうちの功績賞については公募いたしません。なお、同一の候補  
について同一の方から2以上を各賞候補として推薦または応募されることは認め  
ません。また、同一の候補について別々の方から2以上を各賞候補として推薦ま  
たは応募された場合は、推薦者等相互間で調整していただくことがあります（国  
際貢献賞および技術功労賞は平成11年度より毎年募集いたしております）。

### 社団法人 土 木 学 会

〒160-0004 / 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内）

TEL 03-3355-3442 / FAX 03-5379-0125

E-mail :office@jsce.or.jp

http://www.jsce.or.jp

# 土木学会賞候補募集要項

種別 項目	技術賞	環境賞	論文賞	吉田賞
候補 対象	【グループ】 具体的なプロジェクトに関連して、土木技術の発展に顕著な貢献をなした画期的な計画、設計、または施工等の個別技術に係る業績。 【グループ】 土木技術の発展に顕著な貢献をなした画期的なプロジェクト。	【グループ】 環境への負荷を低減する土木技術・システムを開発・運用し、良好な環境を保全すると共により豊かな環境の創造に貢献した画期的な業績。 【グループ】 環境の保全・創造に貢献した画期的なプロジェクト。	【論文賞】 原則として、土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、独創的な業績を挙げ、これが土木工学における学術・技術の進歩、発展に顕著な貢献をなしたものの。 【論文奨励賞】 原則として、土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術・技術の進歩、発展に寄与し、独創性と将来性に富むもので、受賞者の年齢が受賞年の4月1日現在で満36才未満であるもの。	【研究業績部門】 コンクリートに関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。 【論文部門】 土木学会の刊行物に発表されたコンクリートに関する単独の論文、報告等の中から選ばれる。
受賞 候補者	【グループ】 個人あるいは団体。 【グループ】 プロジェクト。	【グループ】 個人あるいは団体。 【グループ】 プロジェクト。	応募時点において本会個人会員および海外の協定協力学会会員の個人に限る。 過去に論文賞を受賞した者は再び受賞候補者となり得るが、論文奨励賞を受賞した者は同一の賞の候補者になることができない。 なお、同一人が同時に論文賞・論文奨励賞を通して候補者になるのは1件に限る。 共著者に受賞候補になることができないものが含まれていることは差し支えない。 共著者を受賞候補者から省いて推薦する場合は、必ず受賞候補者の当該論文(研究)に対する貢献度を具体的に明記すること。	【研究業績部門】 本会会員の個人とする。 ただし、既受賞者(研究業績部門で昭和60年度以降授与された者)は受賞候補者となることはできない。 【論文部門】 本会会員あるいは海外の協定協力学会の会員で、個人またはその複数。なお、共著者の一部を除いて受賞候補者を推薦する場合、推薦者は必ず受賞候補者の貢献について具体的に明記すること。
候補 の範囲	平成14年1月1日から平成15年12月31日までの間におおむね終了した業績とする。	平成11年1月1日から平成15年12月31日までの間に終了した業績およびプロジェクトとする。	平成14年1月1日から平成15年12月31日までの間に発表されたもので、原則として、土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に登載されたものに限る。 なお、同一の課題につき当該期間以前においても論文が発表されている場合には、前掲に該当する論文にその過去における発表論文を加えて総合題目として候補の対象とすることもできる。	【研究業績部門】 平成11年1月1日から平成15年12月31日まで(5年間)の間に、各種刊行物に発表された論文、設計・施工・計画・考案などの報告等を参考とする。 なお、同一の問題につき、当該期間以前において発表されたものを加えて総合題目とすることもできる。 【論文部門】 平成14年1月1日から平成15年12月31日まで(2年間)の間に発表されたものとする。
推薦 (応募)の方法	推薦者は会員、支部、土木事業に関連する学・協会・法人とする。 推薦者は別に定める推薦書、候補業績の要旨各1部を提出する。 なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。	推薦者は会員、支部、土木事業に関連する学・協会、法人とし、自薦を可とする。推薦者は別に定める推薦書、候補業績の要旨各一部を提出する。 なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。	推薦者は会員(個人、団体)、支部、その他一般とするが、会員自らの応募であってもよい。 応募に必要な提出物は以下のとおり。 ①別に定める様式による推薦書1部 ②推薦論文(別刷又はコピー)8部 ③土木学会誌、土木学会論文集以外に発表されたものは推薦書別紙1部 ④その他、推薦者が審査にあたって必要と思われる資料があれば8部 尚、審査にあたっては別途必要に応じて資料の追加提出を求めることがある。	推薦者は、会員、その他一般とする。なお、論文部門については自らの応募であってもよい。 推薦者は、別に定める様式による推薦書1部を提出する。推薦者は、候補者により発表された論文、報告等が土木学会誌、土木学会論文集以外に掲載された場合は、推薦書に添えて研究業績部門にあつては27部、論文部門にあつては8部提出しなければならない。なお、必要があるときには、追加提出を求めることがある。
審査	表彰委員会において行う。	環境賞選考委員会において行う。	論文賞選考委員会において行う。	吉田賞選考委員会において行う。
開内 催容の 説明無 会	推薦者または推薦者の指定する代理人に出席を求め説明を受ける(実施については事務局から別途通知する)。説明の際に使用できる機器:パソコン(html形式およびパワーポイントで作成すること)	推薦者または推薦者に指定する代理人に出席を求め説明を受けることがある(実施の有無、期日等については事務局から別途通知する)。説明の際に使用できる機器:パソコン(html形式およびパワーポイントで作成すること)	開催しない。	開催しない。
表彰	第90回通常総会において行い、賞状、賞牌を贈る。	第90回通常総会において行い、賞状、賞牌を贈る。	第90回通常総会において行い、賞状、賞牌、賞金を贈る。	第90回通常総会において行い、賞状、賞牌、賞金を贈る。
期締 日切	平成16年1月20日(必着)			
提出 先	〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) TEL 03-3355-3442 土木学会表彰委員会	〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) TEL 03-3355-3442 土木学会環境賞選考委員会	〒160-0004 / 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) TEL 03-3355-3442 土木学会論文賞選考委員会	〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会吉田賞選考委員会 TEL 03-3355-3442

注:推薦(応募)書用紙は土木学会本部総務課または各支部に準備してありますから必ずその用紙を使用してください。あるいは、本会ホームページより推薦(応募)書用紙を取り出すこともできます。

田 中 賞	技術開発賞	出版文化賞
<p>【研究業績部門】 橋梁に関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。</p> <p>【論文部門】 土木学会刊行物に発表され、計画、設計、製作・施工、維持管理、考案、歴史などに関連して橋梁工学の発展に大きく貢献した、論文、報告を対象とする。</p> <p>【作品部門】 橋梁およびそれに類する構造物の新設または改築で計画、設計、製作・施工などの面において特色を有する作品を対象とする。なお、規模の大小を問わない。</p>	<p>設計、施工、または維持管理等において、創意工夫に富むと認められる技術を開発、実用化し、土木技術の発展を通じて、社会に貢献したと認められる者。</p>	<p>出版文化賞は土木に関連する出版物で、土木工学、土木技術の発展に貢献し、あるいは読者に感銘を与えることにより、土木文化の活動の一環となりつと認められた出版物を対象とし、その著者を表彰する。</p>
<p>【研究業績部門】 本会会員の個人。ただし、既受賞者(研究業績部門)は受賞候補者となることはできない。</p> <p>【論文部門】 本会会員および海外の協定協力学会の会員で、個人またはその複数。ただし、共著者を受賞候補者から省いて推薦する場合は、必ず受賞候補者の貢献度を具体的に明記すること。</p> <p>【作品部門】 作品自身を対象とする。</p>	<p>ひとりまたは複数(5名以内)の個人。 ただし、ひとりの場合は土木学会正会員とし、複数の場合は、土木学会正会員(個人)が1名以上参加し、主要な役割を果たしているものとする。</p>	<p>本会会員に限らない。</p>
<p>【研究業績部門】 候補者の研究業績に関する参考論文等は、原則として平成11年1月1日から平成15年12月31日までの間に各種刊行物に発表されたものとする。</p> <p>【論文部門】 平成14年1月1日から平成15年12月31日までの間に土木学会刊行物に発表された論文、報告で、原則として1編とする。</p> <p>【作品部門】 平成14年1月1日から平成15年12月31日までの間に完成した作品を対象とする。完成の時期については、原則的には供用開始のときとする。なお、その他一連の工事の一部としての橋梁等の構造物では、そのもの自身が完成したと見なされることとする。ただし、軌道、舗装等は未施工でもよい。</p>	<p>技術開発の行われた時期は問わないが、おおむね、最近5か年以内に実績が認められその技術内容が技術雑誌等に公表されたものとする。</p>	<p>以下の条件を満たす出版物を候補対象とする。</p> <p>(1)平成13年1月21日から平成16年1月20日の3か年の間に発行された出版物とする。</p> <p>(2)市販された出版物あるいは図書館などの公開が保証されている出版物(電子出版物を含む。ただし土木学会出版物は除く)。</p> <p>(3)新規の著作として一定の水準を確保している出版物(ハンドブック、マニュアル、便覧の類、資格試験参考書、あるいは改訂版で一部のみが改訂されたもの等は除く)。</p> <p>(4)特に複数の執筆者等による共著、共訳においては、それぞれの執筆個所が明記されるなど各著者等の対象作品における貢献度合いが明瞭に判別できる出版物。</p> <p>注)なお詳細は出版文化賞選考委員会HPに掲載の「土木学会出版文化賞候補・推薦にあたっての留意点」を参照のこと。</p>
<p>【研究業績部門】 推薦者は本会会員(個人、団体)、支部、その他一般とする。なお、自らの推薦は認めない。推薦者は別に定める様式による推薦書1部を提出する。参考論文等が土木学会誌、土木学会論文集以外に発表されている場合は、推薦書に添えてコピー28部を提出しなければならない。</p> <p>【論文部門】 推薦者は、本会会員(個人、団体)、支部、その他一般とする。なお、自らの推薦でもよい。推薦者は、別に定める様式による推薦書1部と、候補論文のコピー28部を提出しなければならない。</p> <p>【作品部門】 原則として受賞候補に関与した当事者が別に定める調書をコピーを含めて28部を提出する〔写真(鮮明なカラーコピーでも可)はおのにおに添付すること〕。</p>	<p>推薦者は、会員、支部、土木事業に関連する学・協会および法人とし、自らの応募は認めない。推薦者は、別に定める応募調書、技術概要書(ホームページ参照)、および当該業績に関し技術雑誌等に発表された資料(コピー可)を各1部提出する。なお、必要に応じ資料部数の追加を求められることがある。</p>	<p>(1)推薦資格者:本会会員に限る。</p> <p>(2)推薦件数 ・本会会員は2件以内。 ・本会の理事、監事、支部長、常置された委員会委員長、フェロー会員は3件以内。 ・土木学会誌編集委員会委員長はブックウォッチャーのすずめに基づいて8件まで推薦できる。</p> <p>(3)推薦の手続き ・推薦作品に関わる下記の項目を所定の推薦用紙(HPに掲載)にて出版文化賞選考委員会宛提出する(提出方法は郵便、FAX、E-mail等いずれも可)。 a. 推薦者氏名・会員種別 b. 推薦者所属 c. 推薦者連絡先(住所・電話番号・FAX番号・E-mailアドレス) d. 推薦作品名・著者・発行所・発行年月日 e. 推薦文(推薦作品の優れている点、土木への貢献度を500字以内にまとめる)</p> <p>注)市販されていない出版物の場合は推薦書に必ず1冊以上を添えて提出(寄贈)のこと。一般に市販されている出版物の場合は推薦書のみで可。</p>
<p>田中賞選考委員会において行う。 なお、必要のあるときは、さらに関係資料の提出を求められることがある。</p>	<p>技術開発賞選考委員会において行う。</p>	<p>出版文化賞選考委員会において行う。</p>
<p>作品部門について、候補関係者に出席を求め説明を受ける(実施については事務局から別途通知する)。</p>	<p>候補者に出席を求め説明を受ける(実施については事務局から別途通知する)説明の際に使用できる機器:パソコン(html形式およびパワーポイントで作成すること)</p>	<p>開催しない。</p>
<p>第90回通常総会において行い、研究業績部門および論文部門の受賞者に対しては、賞状、賞牌を、また、作品部門の受賞作品については、賞状および賞牌を贈る。</p>	<p>第90回通常総会において行い、賞状、賞牌を贈る。</p>	<p>第90回通常総会において行い、賞状、賞牌を贈る。ただし、共著者の場合は、賞状は全員に贈り、賞牌は代表者に贈る。また、同時に受賞作品の出版社に対して感謝状を贈呈する。なお、翻訳作品を受賞対象とした場合は、原著者、翻訳者を表彰する(この場合の表彰方法は委員会で定める)。</p>
<p>平成16年1月20日(必着)</p>		
<p>〒160-0004 / 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) TEL 03-3355-3442 土木学会田中賞選考委員会</p>	<p>〒160-0004 / 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会技術開発賞選考委員会 TEL 03-3355-3442</p>	<p>〒160-0004 / 東京都新宿区四谷1丁目(外濠公園内) 土木学会出版文化賞選考委員会 TEL : 03-3355-3596 / FAX : 03-3355-6055 / E-mail : library@jsce.or.jp 出版文化賞に関するホームページのアドレスは以下の通りです。推薦要項の他、過去の受賞作品の紹介なども掲載しておりますので、ご利用ください。 <a href="http://www.jsce.or.jp/committee/pub_prize/">http://www.jsce.or.jp/committee/pub_prize/</a></p>

注:海外の協定協力学会については、総務課へお問合せください。注:各賞に係わる事前説明は固くお断りいたします。

## 土木学会賞候補募集要項

種別 項目	国際貢献賞	技術功労賞
候補 対象	<p>【国際貢献賞】 海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本整備に貢献し、現地で高く評価された日本人、ならびに日本の土木工学の発展に貢献したと認められた外国人。 過去に国際活動奨励賞を受賞したのも国際貢献賞の受賞候補者となりうる。</p> <p>【国際活動奨励賞】 海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本の整備において、現地国での土木技術の発展に独創性をもって寄与し、国際貢献への活動が今後とも期待される日本人技術者で、平成16年4月1日現在で満50歳以下であるもの。</p>	<p>長年にわたり人目につきにくい業務に従事し、地道な実務の積み重ねを通じて土木工学の進歩発展に功労のあった者。 技術功労賞の対象分野としては、次の6分野がある。 (1) 教育・研究・啓発 (2) 調査・計画 (3) 設計・監理 (4) 用地・補償 (5) 施工・検査 (6) 管理・運用・防災・保全 候補対象者の例を7頁に記す。</p>
受賞 候補者	個人（本会会員の資格の有無を問わない。）	<p>個人（本会会員の資格の有無を問わない）</p> <p>「技術功労賞」は「功績賞」とは性質を異にし、人目につきにくい業務に長年にわたって従事するとともに、地道な実務の積み重ねの成果に対して授与されます。この趣旨を十分にご配慮ください。</p>
候補 の 範囲	平成15年12月末までの業績とする（平成15年度）。	平成15年12月末までの業績とする。
推薦 (応募) の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推薦者は、会員、支部、土木事業に関する学・協会、法人とする。</li> <li>・ 推薦者は別に定める推薦書を一部提出する。</li> <li>・ なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推薦者は会員（個人、団体）、支部、その他一般とするが、会員自らの応募であってもよい。</li> <li>・ 推薦者（応募者）は別に定める推薦書を1部提出する。</li> <li>・ なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。</li> </ul>
審査	国際貢献賞選考委員会において行う。	技術功労賞選考委員会において行う。
開 催 の 説 明 有 無	開催しない。	開催しない。
表 彰	<p>【国際貢献賞】第90回通常総会において行い、賞状・賞牌を贈る。 【国際活動奨励賞】第90回通常総会において行い、賞状を贈る。</p>	第90回通常総会において行い、賞状・賞牌を贈る。
期 締 切	平成16年1月20日（必着）	平成16年1月20日（必着）
提 出 先	〒160-0004 / 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内） 土木学会国際貢献賞選考委員会 TEL.03-3355-3442	〒160-0004 / 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内） 土木学会技術功労賞選考委員会 TEL.03-3355-3442

# 土木学会表彰規程

【総則】	第1条	土木学会細則第39条による表彰はこの規程による。
【賞の種類】	第2条	表彰は次の土木学会賞（総称）を授与して行う。 1.功績賞 2.技術賞 3.環境賞 4.論文賞 5.吉田賞 6.田中賞 7.技術開発賞 8.出版文化賞 9.国際貢献賞 10.技術功労賞
【功績賞】	第3条	功績賞は、本会会員であって、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められたものに授与する。
【技術賞】	第4条	技術賞は、Iグループ：具体のプロジェクトに関連して、土木技術の発展に顕著な貢献をなした画期的な計画、設計または施工等の個別技術に係る業績およびIIグループ：土木技術の発展に顕著な貢献をなした画期的なプロジェクトに授与する。
【環境賞】	第5条	環境賞は、Iグループ：環境への負荷を低減する土木技術・システムを開発・運用し、良好な環境を保全すると共により豊かな環境の創造に貢献した画期的な業績およびIIグループ：環境の保全・創造に貢献した画期的なプロジェクトに授与する。
【論文賞】	第6条	論文賞は本会個人会員（海外の協定協力学会の個人会員は本会会員とみなす）であって、原則として土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に独創的な業績を挙げ、顕著な貢献をなしたと認められたものに授与する。  (2) 論文奨励賞は本会個人会員（海外の協定協力学会の個人会員は本会会員とみなす）であって、原則として土木学会誌、土木学会論文集、その他土木学会の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術に関する進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められ、受賞者の年齢が受賞年の4月1日現在で満36才未満であるものに授与する。
【吉田賞】	第7条	吉田賞は、次の2部門に分けて授与する。  (1) 研究業績部門：コンクリートに関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とし、各種刊行物に発表された論文、設計、施工・計画・考案などの報告等を参考とする。受賞候補者は本会会員の個人とする。  (2) 論文部門：土木学会の刊行物に発表されたコンクリートに関する論文、報告等の中から選ばれる。受賞候補者は本会会員の個人またはその複数とする（ただし、海外の協定協力学会の個人会員は本会会員とみなす）
【田中賞】	第8条	田中賞は次の3部門に分けて授与する。  (1) 研究業績部門：橋梁に関する技術の進歩、発展に顕著な業績を挙げたと認められる者を対象とする。受賞候補者は本会会員の個人とする。  (2) 論文部門：土木学会刊行物に発表された論文、報告の中で、計画、設計、製作・施工、維持管理、考案、歴史などに関連して橋梁工学の発展に大きく貢献したと認められる論文を対象とする。受賞候補者は本会会員で、個人またはその複数とする（ただし、海外の協定協力学会の個人会員は本会会員とみなす）。  (3) 作品部門：橋梁およびそれに類する構造物で、計画、設計、製作・施工などの面において特色を有する作品を対象とする。なお、規模の大小を問わない。
【技術開発賞】	第9条	技術開発賞は、設計、施工または維持管理等において、創意工夫に富むと認められる技術を開発、実用化し、土木技術の発展を通じて、社会に貢献したと認められる者に授与する。
【出版文化賞】	第10条	出版文化賞は、土木に関連する出版物で、土木工学・土木技術の発展に貢献し、あるいは読者に感銘を与えることにより、土木文化活動の一環となりうると認められた出版物の著者を対象とする。
【国際貢献賞】	第11条	国際貢献賞は海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本整備に貢献し、現地で高く評価された日本人、並びにわが国の土木工学の発展、土木技術の国際交流に貢献したと認められた外国人に授与する。  (2) 国際活動奨励賞は海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本の整備において、現地で土木技術の発展に独創性をもって寄与し、国際貢献への活動が今後も期待される日本人技術者に授与する。
【技術功労賞】	第12条	技術功労賞は、長年にわたり人目につきにくい業務に従事し、地道な実務の積み重ねを通じて土木工学の進歩発展に功労があった者に授与する。受賞候補者は個人とし、本会会員の資格の有無を問わない。
【委員会】	第13条	土木学会賞を選考するため次の委員会をおく。 1.表彰委員会 2.環境賞選考委員会 3.論文賞選考委員会 4.吉田賞選考委員会 5.田中賞選考委員会 6.技術開発賞選考委員会 7.出版文化賞選考委員会 8.国際貢献賞選考委員会 9.技術功労賞選考委員会  (2) 表彰委員会は功績賞、技術賞の受賞候補の選考をなし、環境賞、論文賞、吉田賞、田中賞、技術開発賞、出版文化賞、国際貢献賞および技術功労賞各選考委員会の具申を受けて、必要に応じて各賞間の調整を行い、土木学会賞受賞候補を決定する。  (3) 環境賞選考委員会は環境賞候補の選考を行う。 (4) 論文賞選考委員会は論文賞候補の選考を行う。 (5) 吉田賞選考委員会は吉田賞候補の選考を行う。 (6) 田中賞選考委員会は田中賞候補の選考を行う。 (7) 技術開発賞選考委員会は技術開発賞候補の選考を行う。 (8) 出版文化賞選考委員会は出版文化賞候補の選考を行う。 (9) 国際貢献賞選考委員会は、国際貢献賞候補の選考を行う。 (10) 技術功労賞選考委員会は、技術功労賞候補の選考を行う。 (11) 前記各委員会の構成、運営その他については別に内規で定める。
【報告】	第13条の2	専務理事は、前条に規定する各委員会の構成等について、理事会に報告しなければならない。
【賞の決定、表彰の時期・方法】	第14条	土木学会賞は理事会において決定し、表彰は原則として毎年1回通常総会において賞牌・賞状等を授与して行う。
附則	この規程は、理事会の議決により変更することができる。	

## 吉田研究奨励賞募集要項

1. 候補対象 コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する研究に従事し、特に独創性と将来性に富むと認められる者の個人または複数（3名以内）。ただし、応募締切時において満40才以下の本会会員に限る。特殊な場合を除き、すでに吉田研究奨励賞（平成4年度までは吉田研究奨励金）を授与された者を除く。
2. 募集の方法 候補対象者本人の応募による。
3. 応募の方法 所定様式により研究計画書を提出する（計画書の様式は土木学会本部総務課および各支部に準備してありますから、必ずその用紙を使用してください。また、本会ホームページより推薦（応募）書用紙を取り出すこともできます）。
4. 審査 吉田賞選考委員会において、研究計画を審査し、授賞者および奨励金額を決定する。
5. 表彰 第90回通常総会にて行い、賞状および賞金を贈る。
6. 応募の締切期日 平成16年1月20日（必着）
7. 提出先 〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内） 土木学会吉田賞選考委員会
8. 研究成果の報告 研究成果概要報告書あるいは中間概要報告書を平成17年4月10日までに吉田賞選考委員会に提出するほか、研究計画終了翌年度の年次学術講演会あるいは土木学会刊行物において吉田研究奨励賞を授与された研究であることを明らかにして発表しなければならない。ただし、この場合、被授与者以外の者を連名者に加えることはできるが、講演者または筆頭者にはしないものとする。また、前記以外に発表する場合は、吉田研究奨励賞を授与された研究である旨を明記しなければならない。

## 土木学会吉田賞「国際研究集会等への参加援助制度」について

土木学会吉田賞選考委員会では、「国際研究集会等への参加援助制度」を実施しております。参加者を公募しますので、希望者は下記の募集要領に従いふるってご応募ください。

1. 趣旨 研究あるいは技術開発の中で得た、コンクリート工学・コンクリート技術に関する知見や成果等を国際研究集会等で公表する際の経費を援助することにより、国際的な情報発信、研究交流を促進し、学術・技術の発展向上を計り、斯界におけるわが国の貢献を明らかにしていくことを目的とする。
2. 援助対象者 援助の対象者は、土木学会コンクリート委員会の各種委員会（I種、II種、III種委員会）あるいは、コンクリート委員会以外の各種コンクリート関連委員会の委員で、コンクリートならびにコンクリート関連分野の国際研究集会等に参加し、委員会活動の結果、委員会活動の中で得られた知見等を発表する者。また上記委員会の委員ではない本会会員の個人が、個人的な研究の成果や知見を発表する場合も援助の対象とする。ただし、援助の趣旨から判断して、本参加援助制度の適用は、当委員会がその国際研究集会等が重要であり、かつその者の参加が意義あると認めた場合に限る。なお、国際研究集会等の開催地は日本国内外を問わない。
3. 対象研究集会等の開催日 対象とする研究集会は平成16年4月1日から平成17年5月末日までに開催されるものとする。
4. 援助金額 国際研究集会等へ参加するために必要な経費の全額あるいは一部を旅費として支給する。ただし、原則として上限を40万円とする。
5. 応募規定 提出書類：申請者は、所定の申請用紙に必要事項を記載のうえ、援助対象となる活動の内容を示す書類を添付して下記事務局へ提出する。  
申請者はその所属機関の長に申請の承諾を応募時までにて得おくこと。  
応募締切期日：平成16年1月20日（必着）
6. 選考方法と結果の通知 援助の決定は、委員会による審査を経て、委員長が行う。選考結果は、平成16年3月末日までに応募者全員に通知する。
7. 報告の義務 援助金の受領者は、所定の様式により集会等の終了後1か月以内に報告書を提出する。
8. 申請書用紙請求および応募書類・報告書提出先 所定の様式は、土木学会本部総務課および各支部に準備してありますから、必ずその用紙を使用してください。また、本会ホームページより推薦（応募）書用紙を取り出すこともできます。  
〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目（外濠公園内）  
土木学会吉田賞選考委員会  
電話03-3355-3442 FAX 03-5379-0125

# 技術功労賞候補対象者の例

技術功労賞の対象分野としては、次の6分野があり、以下にその例を示す。

## (1) 教育，研究，啓発

土木教育において長年実験実習等（OJT等職場での教育を含む）に携わり、多くの技術者、技能者等を世に送り出したもの。また、教育方法の改善に役立つ、創意工夫を加えたもの。

実験、試験、研究、実験・試験機器の試作・改良に従事し、それらの促進に寄与する貴重な成果をあげることに貢献したもの。

土木工学を紹介する書物や映像の制作などに長年従事し、土木工学に対する一般大衆の理解を高めるなど、啓発活動に地道な努力を傾注したもの。

## (2) 調査，計画

自然条件の観測，地形測量，図書，資料，統計データの収集，整理，分析，解析等に従事し，多くの貴重な資料作成に貢献したもの。

プロジェクトの調査・計画にあたり，長年の経験を生かし，新しい手法の採用やプログラムの開発などを手掛け，多くの成果をあげたもの。

環境問題を考慮したプロジェクトの立案に従事し，以降のプロジェクトに影響を与えるなど数多くの貢献のあったもの。

## (3) 設計，監理

高度にして困難な各種土木構造物の設計あるいは監理業務に従事し，数多くの貢献を果たしたもの。

長年の経験を生かし，特殊な土木構造物の設計に従事し，数多くの貢献のあったもの。

長年の経験を生かし，合理的な監理手法や検査方法の改良に努め，数多くの貢献のあったもの。

## (4) 用地，補償

事業遂行に向け，境界確定，用地取得，区画整理，漁業補償等の交渉に従事し，数多くの貢献を果たしたもの。

用地取得，補償の実施に際し必要となる基準等に関する資料収集，調査，研究，整備に数多くの貢献のあったもの。

## (5) 施工，検査

事故防止のため，一企業，一事業所の範囲に止まらず，施工の安全高揚に精励し，数多くの貢献を残したもの。

工事現場に長年従事し，機械化の推進や施工方法の改善，衛生的な事務所や宿舍の確保など労働環境の改善に貢献したもの。

施工に関し，独自の検査方法を考案するなど品質の向上に数多くの貢献のあったもの。

## (6) 管理，運用，防災，保全

長年にわたって，維持・管理業務に従事し，事故や災害を未然に防ぐために献身的に業務を遂行し，さらに業務の改善に地道な努力を行っているもの（例えば，鉄道や道路，河川施設，港湾施設，上下水道，廃棄物処理場などの維持・管理業務）。

各種の管理システムや運用システム，防災システム，保全システムについて，長年にわたり個々の技術やシステムの開発，改善に従事し，省力化や省エネルギー化，効率化等に数多くの貢献のあったもの。

土木構造物（敷地を含む）の安全管理や保全に地道に努め，数多くの貢献のあったもの。

以上

# 平成14年度の土木学会賞受賞者(敬称略)

功績賞	中川博次, 榎木 亨, 鈴木道雄, 吉川和広, 飯田隆一, 合田良實, 佐武正雄
技術賞	国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所, 鹿島建設(株) / 一般国道42号木ノ川高架橋の設計(鋼・コンクリート複合トラス橋) 日本鉄道建設公団九州新幹線建設局 / 水砕スラグを用いた透水性路盤による地下水面しらず地山のトンネル構造および施工方法の確立 東京急行電鉄(株), 大成建設(株), 鹿島・鉄道・西松建設共同企業体, 清水建設(株), ㈱東急設計コンサルタント, パシフィックコンサルタンツ(株) / 鉄道営業線直下における都市NATMトンネルの施工 - 東急東横線東白楽 - 横浜駅間地下化工事 - (財)新エネルギー財団, 電源開発(株), 北海道電力(株), 清水・三井・鹿島・大成共同企業体 / 高圧空気8MPaを貯蔵する新しい地下貯蔵技術の開発 - CAES-G/Tパイロットプラント圧縮空気地下貯蔵施設の設計・施工・実証 - 三宅島の火山砂防事業 - よみがえる三宅島をめざして - 21世紀の新たな物流拠点をめざした高規格コンテナふ頭の建設 - 横浜港南本牧ふ頭建設事業MC-1・2ターミナル - 我が国初の「歴史的ダム保全事業」 - 日本最古のアースダム・狭山池の大改修と旧堤体の全断面移築・保存 - 首都圏の新しい鉄道ネットワークを形成するりんかい線の建設 首都圏外郭放水路事業 - 未来につなげる地下の川 - 自然環境と調和した世界初の既設アースダムにおけるレベル2地震動対応の耐震強化 - 東京都水道局山口貯水池堤体強化工事 -
環境賞	大成建設(株) / 砂投入が不要な新工法「底泥置換覆砂工法」による水域環境再生技術の開発 環境に配慮した新しい山岳トンネル掘削方法の取組み - 坂上トンネル(上山田側工区)工事 - 尾道系崎港における浚渫土砂を利用した干潟及び藻場の再生プロジェクト 環境保全に配慮した鶴ヶ島市新田土地区画整理事業
論文賞	大町達夫 / 震源域における地震動特性及び関連事象に関する研究(総合題目) 片田敏孝 / 河川洪水に対する住民の災害情報理解と避難行動に関する総合的研究(総合題目) 小峯秀雄・緒方信英 / 高レベル放射性廃棄物処分のためのベントナイト系緩衝材・埋戻し材の透水・膨潤特性の簡易評価法(総合題目) 桑原雅夫 / 動的な限界費用に関する理論的分析 松井邦人・董 勤喜・小澤良明 / 表面に複数のせん断力が作用する線形多層弾性構造の解析 小島尚人・大林成行・北村良介 / 衛星データを導入したシラス自然斜面の崩壊危険箇所評価に関する研究(総合題目) 松藤敏彦・田中 信壽・羽原浩史 / 一般廃棄物処理計画におけるコストと環境負荷の総合評価(総合題目)
論文奨励賞	本田利器 / スペクトル確率有限要素法によるランダム場の波動伝播解析 松本泰尚 / 鉛直振動暴露時の人体動的応答特性に関する研究 竹林洋史 / 自己形成流路の形成過程と形成水理条件 松島格也 / 利他的支払い意思を考慮したパリアフリー施設の経済便益評価とその調査法(総合題目) 宮里心一 / モルタルの欠陥部に生じる塩害あるいは中性化による鉄筋腐食の形態と速度 堀田昌英・神野由紀 / 参画型パブリック・マネジメントの情報基盤CRANESの開発 高岡昌輝 / 硫化ナトリウム添加による飛灰上の塩素化芳香族化合物の生成抑制に関する実験的研究
吉田賞	《研究業績部門》長瀬重義 / 混和材料によるコンクリートの高性能化に関する研究 《論文部門》上田多門・佐藤靖彦・伊藤常正・西園勝秀 / Shear Deformation of Reinforced Concrete Beam 佐伯竜彦・植木 聡・嶋 毅 / 塩害と中性化の複合による塩化物イオンの浸透予測モデルの構築
田中賞	《研究業績部門》沼田昌一郎 / 都市内高速道路の長大橋及び高架橋の計画・設計・施工・管理など広範囲にわたる研究及び指導的業績 《論文部門》三木千壽・市川篤司・坂本拓也・田辺篤史・時田英夫・下里哲弘 / 鋼製箱形断面ラーメン橋脚隅角部の疲労特性 阿部雅人・藤野陽三・長山智則・池田憲二 / 常時微動計測に基づく非比例減衰系の構造同定と長大吊橋への適用例 《作品部門》古川高架橋, 龐大橋, 日本・パラオ友好橋, ときめき橋, 五色桜大橋, 酒田みらい橋
技術開発賞	松浦将行・高久節夫・山本征彦・武田邦夫・桐谷祥治 / コンパクトシールド工法の開発 杉本雅一・近藤哲己・沖本真之・時田英夫・柴崎 誠 / 高耐疲労性能を有する鋼管柱基部構造(U字リブ)の開発 石橋忠良・藤沢 一・大迫勝彦・松尾伸之・中村 宏 / 先端プレロード場所打ち杭の開発 佐藤政季・夢沼慶正・浅見 均・小泉 啓・中村英夫 / GISを活用した交通計画支援システム「GRAPE」の開発 大前延夫・海老原雄志・沖 政和・建山和由・須田清隆 / 大規模土工事における施工CALCの開発 - 関西国際空港建設工事への土砂供給事業に適用した精密施工の事例 -
出版文化賞	西山芳一 / タウシュベツ 大雪山の麓に眠る幻のコンクリートアーチ橋
国際貢献賞	住吉幸彦, 西田幸男, 金 光雄
国際活動奨励賞	柏村友彦, 波多野秀美, 吉川 浩, 栗城 稔, 天野正徳, 大内 実, 三木博史, 平石哲也, 土屋紋一郎, 堀井秀之, 奥村文直
技術功労賞	宮下邦彦 / 鉄道建設における施工技術の改良と安全性の向上 平田義弘 / 液化天然ガス地下タンクの施工技術の開発と発展 浜田敏則 / 海洋土工事における施工技術の向上 板東由己 / 都市土木事業における施工技術の向上 千綿俊一郎 / 土木事業における技術向上および労働安全衛生に対する貢献 郷内勝栄 / 鉄道建設に関わる計画・設計・施工技術の向上と推進 加藤 光 / 鉄道建設に関わる機械化施工の向上と推進 小台澤辰雄 / ダム建設技術の向上と災害対応への貢献 武内秀木 / 山岳トンネルにおける設計・施工技術の向上 植野功大 / 鉄道建設に関わる設計・施工・管理技術の向上 小林眞勝 / 大学製図教育への貢献と地域の土木近代化遺産調査の推進 杉山光司 / 労働災害防止のための教育制度確立および後継技術者育成への貢献